



平成29年4月21日
海上保安庁

西之島の噴火について ～溶岩流を確認～

4月21日午後1時20分から午後1時50分の間、当庁羽田航空基地所属航空機MA725により、西之島の火山活動の観測を実施しました。その結果、西之島で溶岩流を確認しました。

【調査結果】

- ・噴煙：山の北麓から北方向。灰色、幅500m、高さ1000m。
- ・噴火：数十秒間隔でストロンボリ式噴火[※]が発生。
- ・溶岩：火口内に赤熱した溶岩を確認。
山の北側で新たな噴火口、溶岩流出口が開口。
溶岩流は海までは達していない。

※ストロンボリ式噴火：非爆発的な噴火

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、「2013年から始まった噴火活動は2015年で終息し、今回の活動はマグマの再上昇による新たな活動であると考えられる。直ちに爆発的噴火に移行するとは考えにくく、溶岩の流出がしばらくの間継続する可能性が高い。」とのコメントが得られました。

引き続き、航行警報により付近航行船舶に注意を呼びかけています。



西之島の噴火の様子（4月21日撮影）